様式 C-19

科学研究費補助金研究成果報告書

平成 22 年 5 月 17 日現在

研究種目：若手研究（B）
研究期間： 2007 ～ 2009
課題番号：19720181
研究課題名（和文） 1930～40 年代、中国福建省における国家権力の浸透と社会構造に関する研究
研究課題名（英文） The Social Structure and the effectiveness of State Control in China’s Fujian Province in 1930’s and 1940’s.

研究代表者
山本　真（YAMAMOTO SHIN）
筑波大学・大学院人文社会科学研究科・准教授
研究者番号：20316681

研究成果の概要（和文）：
中国福建省は伝統的に父系同族組織である宗族が発達した地域である。本研究では現地調査を実施により上記の特徴を実証的に確認しつつ、近現代における国家-社会関係の変容、地域の社会構造の変動を考察した。具体的には 1920－30 年代の中国共産党の土地革命や、1930－40 年代の国民政府による統治に着目し、同族結合を軸とする地域社会の構造が革命や社会統合のあり方をいかに規定したのか、また革命や国民政府の統治を経て地域の社会構造がどの程度変容したのかを実証的に検討した。

研究成果の概要（英文）：
China’s Fujian province has a long tradition of well developed paternal lineages. In this study, field research has been carried out in Fujian in order to investigate the state-society relationship and socio-economical structure in Fujian. Concretely, the focus of this research is on Land Revolution executed by the Communist Party in 1920’s and 30’s, and the governance under of the Nationalist Party from 1930’s to 40’s. I have examined the following: 1). How local social structure influenced the Communist’s way of revolution and Nationalist government’s policies; and 2). How local social structure had changed throughout the Communist revolution and Nationalist government’s regime.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
2007 年度	1,400,000	0	1,400,000
2008 年度	1,100,000	330,000	1,430,000
2009 年度	700,000	210,000	910,000
年度			
年度			
総　計	3,200,000	540,000	3,740,000

研究分野：人文学
科研費の分科・細目：史学・東洋史
キーワード：
中国近現代史、福建省、土地改革、地方文献、宗族、民間信仰、中国国民政府、中国共産党

１．研究開始当初の背景

わが国の中国近現代史研究の動向は、1970 年代以前の革命史、共産党史中心のアプローチから、1980 年代以降は国民党政権による近

代国家建設研究にシフトしていった。そして90年代になると台湾・中国における国民党関係档案（公文書）資料の公開により、こうした流れは一層加速され、中国近現代史に対する新たな知見と複眼的な視座を提供することとなった。特に档案資料の公開は国民政府史研究において精力的に実施された政策過程の解明に大きく寄与したといえる。こうした研究の潮流に影響され、筆者も1990年代後半以降、中国・台湾各地の档案館で収集した一次資料を利用し、国民政府の農村建設・土地政策・地方行政などの近代国家建設に関わる諸事業に対し研究を進めた。その過程で「中国国民政府による農村建設政策の総合的研究」との研究課題で平成15年度から18年度科学研究費補助金の交付を受け、一連の論文を公刊してきた。またその成果を一橋大学博士学位論文『中国国民政府統治区における農村建設の研究』にまとめ、2004年秋に博士の学位を受けた。申請者の一連の研究により国民政府による国家建設の理念と方向性、そして地方行政の実態の一端が明らかになった。しかし、当該博士論文においては、政府の行政文書である档案を主要資料とし、さらにテクノクラートなどの中央の高級官僚による国家建設の理念の解明を重視するなど、「上から下」への政策過程分析に重点が置かれるという限界が内包されていたことも事実である。

ところで、近年中国近現代史研究においては新たな研究視座の模索が進められつつあった。すなわち国家権力の基層社会への浸透、国家による社会の政治的・経済的統合などの「上から下への」作用のみならず、国家統合のあり方を規定したはずの社会構造に対しても十分な注意を払うべきとの主張である。こうした主張が有意義なのは、近現代中国が経験したマクロな構造変動は国家と社会との相互作用（inter action）により形成されたものであり、北京政府や南京国民政府による「上から下への」国家建設や、共産党による革命運動に注目するだけではその全体像が捉えきれないという問題提起による。以上の新たな模索に共感を覚える筆者は、上からの国家建設と基層レベルでの社会変動を統合的に検討するという視座に留意し、国家と社会の相互作用によるマクロな社会変容の解明に向けて研究を展開することとした。具体的には国家と社会が相互に作用しあう「場」として県レベル以下の地域社会を考察対象とし、こうした「場」の設定により、国家レベルでの変動が地域レベルでの社会関係に対しいかなる影響を与えたのか、また地域レベルでの社会構造が国家規模での政治変動をいかに規定したのかに対し、複合的な検討を加えることを試みることとした。

２．研究の目的

広大な中国にあっては社会の構造も地域差が大きく、それぞれの地域ごとの特徴に注目した分析が不可欠となる。そこで、本研究では同族結合体である宗族組織が発達した東南中国、特に福建省を考察の対象とする。中国革命後、その姿を消したかのように思われてきた宗族は、「改革開放」以降、華南を中心に活動を活発化させ、漢人社会における同族結合の根強さを改めて我々に認識させている。そして、近年社会人類学の分野では東南中国における社会結合に関して、村落内部または村落相互の社会関係・婚姻関係といったミクロかつ現状分析的な視点から、精緻な研究が蓄積されつつある。また伝統社会を対象とする明清史研究の分野でも宗族を対象とする研究の発展は著しい。その一方、マクロな視野から政治・経済・社会の変動を動態的に捉える近現代史の領域では、資料不足もあり東南中国における宗族結合の歴史的変容に対して、本格的な研究は十分には行われてこなかった。すなわち同族結合が強固であるという社会構造が党・国家権力の社会への浸透にどのような影響を与えたのか、また国家による上からの政治変動に影響され地域の社会構造がいかなる変容を遂げたのか、という中国近現代史が専ら対象とすべきマクロな問題については、いまだ研究の蓄積が十分とはいえなかった。以上の問題意識に基づき、本研究では1920－40年代における福建省における同族結合の変容及び国家―社会関係の変容に対し考察を加えることとした。具体的には以下の項目に対し検討を進めることとした。①科挙の廃止と新式教育の導入が宗族的凝集力にいかなる影響を与えたのかについて、宗族指導層の変容に注目し検討を行う、②1930年代半ば以降国民政府による国民の意識改革運動である新生活運動が福建でも展開されるなか、地域社会における家族道徳・宗族観・規範意識がいかに変容したのかについて、分析を行う、③1930年代後半以降国民政府が地域社会に対して行政権力を浸透させたことにより、宗族が地域において果たしていた社会的機能はいかなる影響を被ったのか、特に保甲制度の普及過程に則して考察を行う、④1950年代初頭の共産党による剿匪、反革命鎮圧、土地改革と続く一連の革命運動と在地の社会構造との相互作用とを検討する。

３．研究の方法

研究に当たっては中国福建省の福建省档案館、福建省図書館、福建師範大学図書館、厦門大学図書館などで資料を収集した。また福建南西部龍巌地区の農村に赴き族譜や廟の文書を収集するだけでなく、聞き取り調査を実施した。さらに実地で現地村落を見聞歩

くことにより、村落の人文地理を実地で確認した。これに加え、現地に詳しい中国側研究者との学術交流も実施した。2008 年度には、福建師範大学の林国平教授を、2009 年度には莆田学院の兪黎媛講師を筑波大学に招聘し、研究報告会を開催した。

４．研究成果

国家と社会が相互に作用しあう「場」としての県レベル以下の地域社会に着目した定点観察を行うことにより、国家レベルでの変動が地域レベルでの社会関係に対しいかなる影響を与えたのか、また地域レベルでの社会関係が国家規模での政治変動をいかに規定したのかに対し、具体的な検討を加え得た。また、わが国における中国近現代地域史研究は、基本資料として戦前に満鉄が実施した調査資料に依拠したこともあり、研究対象が相対的に華北地区に偏る傾向があった。その他、江南地域史については明清時期から清末民初期にかけての時期を中心に研究蓄積が進められている一方で華南地域史研究の蓄積は相対的に手薄であり、特に近現代史についてはその傾向が顕著であった。本研究においては華南に位置する福建省の社会構造を究明すると同時に、近現代中国における国家―社会関係の変容を明らかにした。本研究により明らかとなった新たな知見を、華北地域史研究や江南地域史研究での成果と総合することを通じて、近現代中国における社会変容の全体像に対する理解を一層深めることが今後の課題となる。なお具体的には以下の点を解明した。研究に当たっては中国福建省の福建省档案館、福建省図書館、福建師範大学図書館、厦門大学図書館などで資料を収集した。また福建南西部龍巌地区の農村に赴き族譜や廟の文書を収集するだけでなく、聞き取り調査を実施した。さらに実地で現地村落を見聞歩くことにより、村落の人文地理を実地で確認した。これに加え、現地に詳しい中国側研究者との学術交流も実施した。2008 年度には、福建師範大学の林国平教授を、2009 年度には莆田学院の兪黎媛講師を筑波大学に招聘し、研究報告会を開催した。

以上の研究により、福建省南西部にあっては、父系同族組織である宗族、民間信仰をめぐる社会的関係、同族により村落が編成されるという人文地理的条件が複合的に社会の凝集力を形成していたことが明らかになった。こうした社会的凝集力を前提に地域の自衛団が編成され、有力な自衛団は共産党の革命に頑強に抵抗したのである。また宗族、自衛団の経済的背景には、林業、製糸業、タバコ業などの山間部における産業に依拠した富が存在し、こうした富から排除された一群の人々が共産党の革命に参加したが、富裕な宗族、村落は武装しこれに頑強に抵抗することになった。国民政府はこうした在地勢力の武力と協力し革命根拠地を包囲攻撃したのである。

その後、共産党の革命根拠地を回収した国民政府は、1930 年代後半から地域社会の再把握のために土地制度や民衆管理制度の改革に着手した。この国民政府による改革もやはり伝統的な社会構造に大きく規定された。すなわち龍巌県地域社会における宗族の強い凝集力は、明代以来の里甲制に由来する戸籍制度・納税慣行と宗族組織との密接な関係を背景としていた。民国時期，特に国民政府時期以降では，宗族を単位とした戸籍制度・納税慣行は解体され，上からの保甲制度が試行されると，宗族による自治は政治の表面からは後退した。しかし、有力宗族のなかには，なお膨大な族産や伝統的宗族意識を維持し続ける者もおり、宗族の社会的影響力には無視できないものがあった。政府への抗議活動に宗族の「戸名」での上申文が出されことや、政府が基層統治に宗族間の対立を意識していたことは，その証左である。本稿の考察から民国時期の地域の特徴として浮き彫りになるのは，宗族を軸に一定程度の凝集力を有する社会像であった。

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 6　件）

①山本真「表象された地主像と民衆の記憶」『中国研究月報』、査読なし、735 号、2009 年、23－30 頁。

②山本真「1940 年代の四川省における地方民意機関―秘密結社哥老会との関係をめぐって」『近きに在りて』、査読あり、54 号、2008 年、73－86 頁。

③山本真「1930～40 年代、福建省における国民政府の統治と地域社会－龍巌県での保甲制度・土地整理事業・合作社を中心にして―」『社会経済史学』、査読あり、74 巻 2 号、2008 年、3－23 頁。

④山本真「民国前期、福建省南西部における経済変動と土地革命」『中国研究月報』査読あり、第 721 号、2008 年、15～30 頁。

⑤山本真「革命と福建地域社会―上杭県蛟洋地区の地域エリート傅柏翠に着目して（1926―1933)」『史学』査読あり、第 75 巻 4 号、2007 年 3 月、33～63 頁。

⑥山本真「第二次大戦後、台湾海峡両岸における人の移動とその背景、閩台関係の視角から―一九四五年～一九五〇年代初頭―」(『東アジア近代史』、査読あり、第 10 号、2007 年、31～51 頁。

〔学会発表〕（計 3 件）

①山本真「民国期、農村における危機と地域社会の対応」中国社会文化学会 2009 年度大会シンポ報告、2009 年 7 月 12 日、東京大学本郷キャンパス。
②山本真「福建省南西部における社会紐帯、国家－社会関係の変遷」慶応義塾大学東アジア研究所『近代中国の地域像』研究班定例研究会、2008 年 12 月 6 日、慶応義塾大学三田キャンパス。
③山本真「民国前期、福建南西部における山区経済の変動と地域社会－土地革命の背景に対する一考察－」2007年7月27日、 明治大学駿河台キャンパス。

〔図書〕（計 1　件）
①山本真「農村から見た土地改革」飯島渉・久保亨・村田雄二郎編『シリーズ 20 世紀中国史』3 巻、東京大学出版会、2009 年
167－186 頁（共著）。

６．研究組織
(1)研究代表者
山本　真（YAMAMOTO SHIN）
筑波大学・大学院人文社会科学研究科・准教授
研究者番号：20316681